

（２）川崎市のしくみの認知度

子どもの回答で最も高いのが「川崎市子ども会議」で40.1%で、次いで「川崎市人権オンブズパーソン」が18.0%であった。また、「一つもしらない」とする回答は44.1%と半数近くに上った。

おとなは、全体的に認知度が低く、65.2%のおとなが「一つも知らない」と回答した。知っているものの中では、「川崎市人権オンブズパーソン」(17.9%)、「川崎市子ども会議」(17.3%)があった。

職員では、「川崎市人権オンブズパーソン」が80.6%と最も高く、次いで「川崎市子ども会議」(75.9%)「かわさき子どもの権利の日」(50.1%)という結果であった。

Q3 次の川崎市のしくみで知っているものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 かわさき子どもの権利の日	2 川崎市子ども会議	3 川崎市人権オンブズパーソン
4 川崎市子どもの権利委員会	5 子どもの権利に関する行動計画	6 一つも知らない

図13 【子ども】

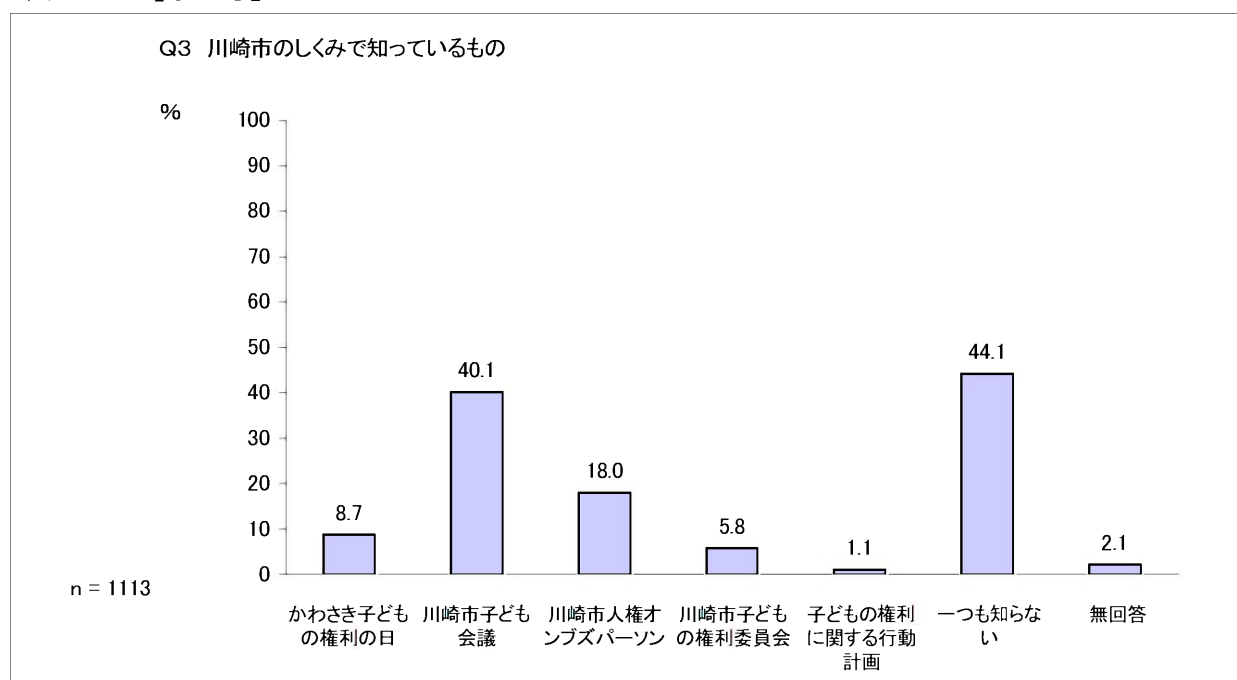


図 1 4 【おとな】

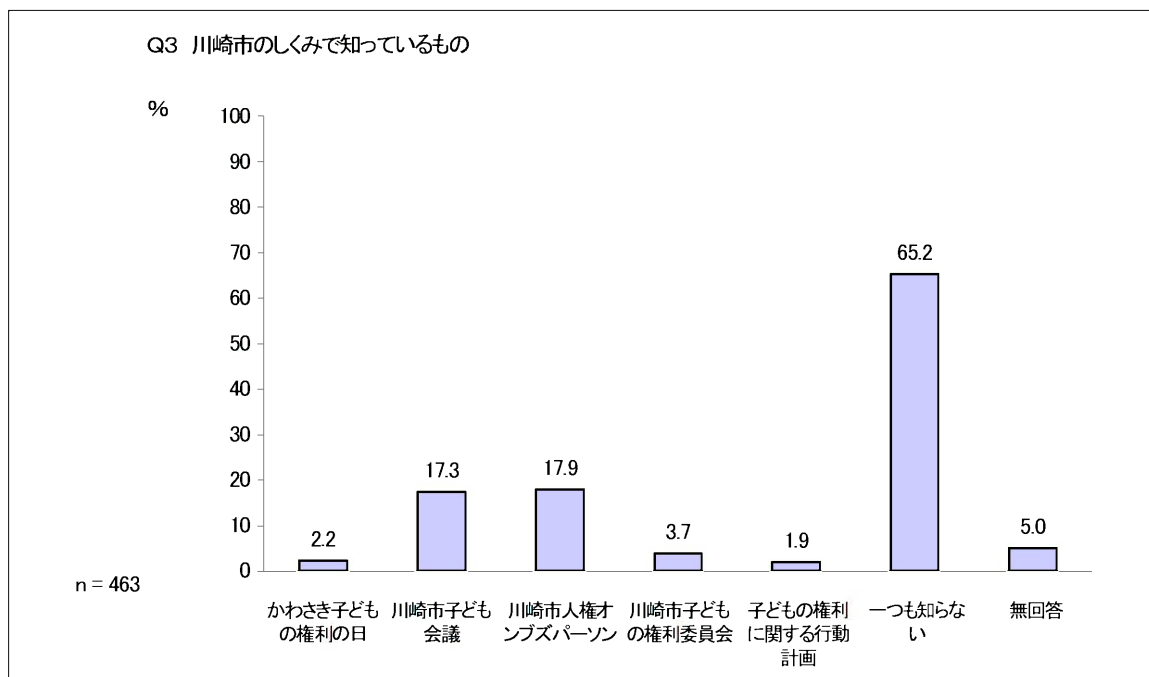
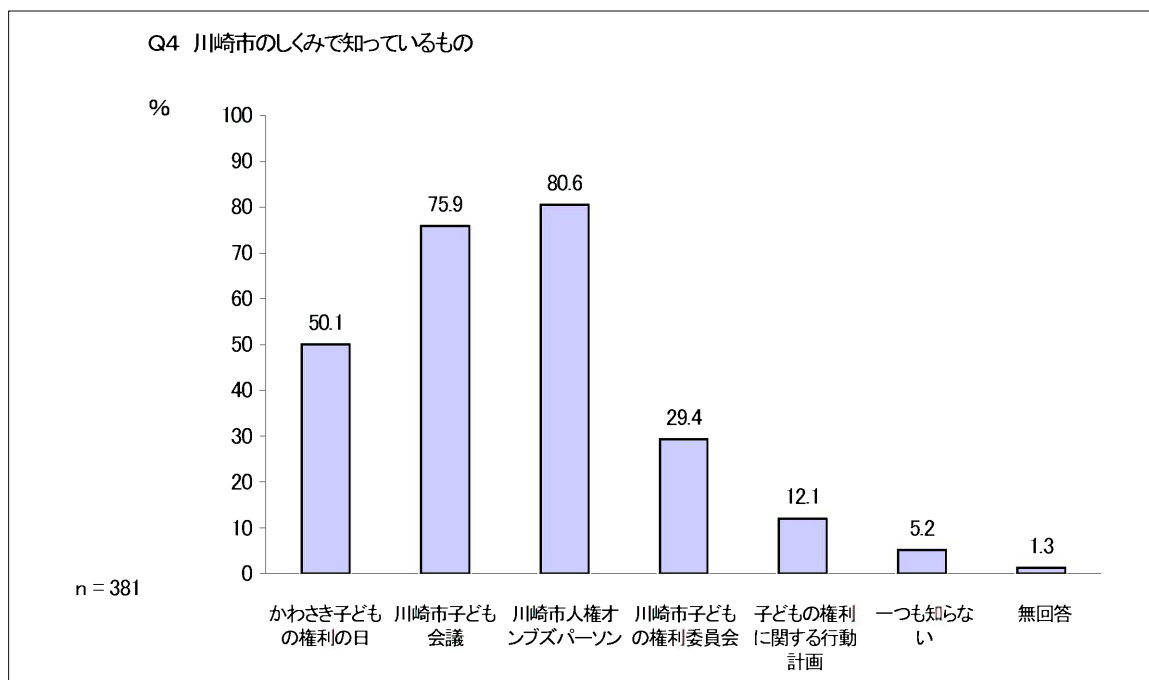


図 1 5 【職員】



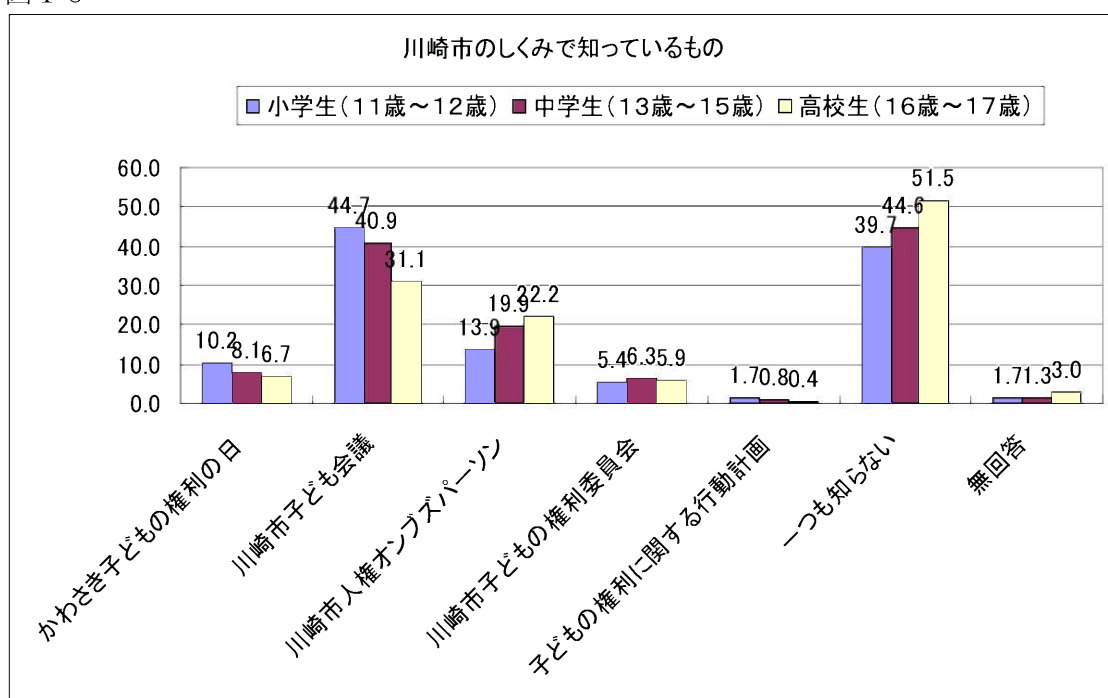
① 子ども

【子ども—年齢別】

年齢別にみると、子ども全体として最も回答が多かった「子ども会議」は、小学生世代が 44.7%、中学生世代で 40.9%、高校生世代で 31.1%と年齢があがるにしたがって減少傾向にあり、「一つも知らない」という回答は逆に年齢があがるにしたがって増加傾向にあり、高校生世代で 51.5%と半数を超える結果であった。

しかし、子ども全体として 2 番目に回答が多かった「川崎市人権オンブズパーソン」は、年齢があがるにしたがって増加し、高校生世代で 22.2%という結果であった。

図 1 6

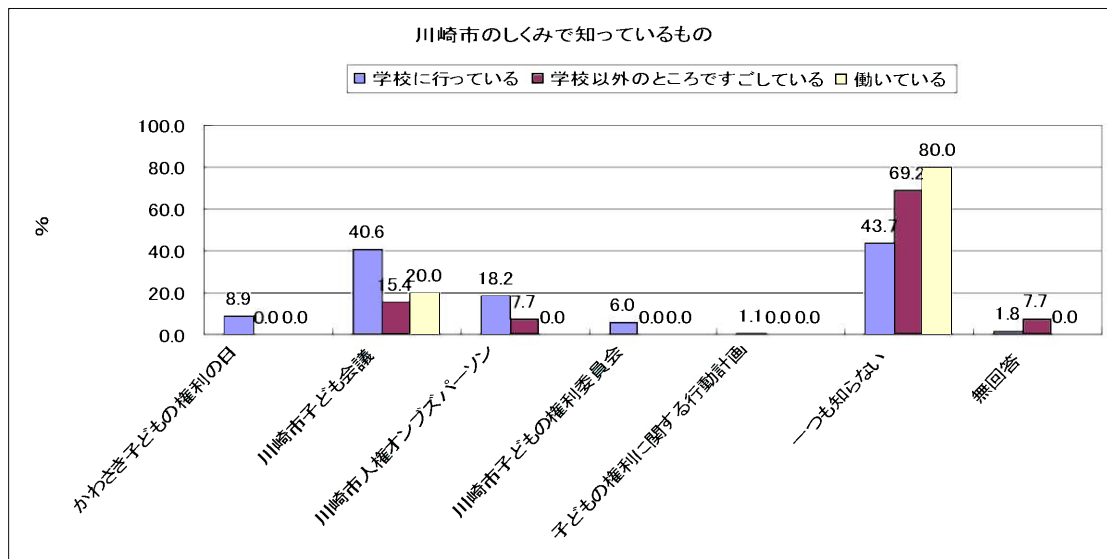


※小学生 (n=459)、中学生 (n=381)、高校生 (n=270)

【子ども—平日に過ごす場所別】

回収数が少ないためあくまで参考データではあるが、学校に行っている子どもと比較すると、「学校以外のところすごしている子ども」も「働いている」子どもも、川崎市のしくみを「一つも知らない」割合が高かった。

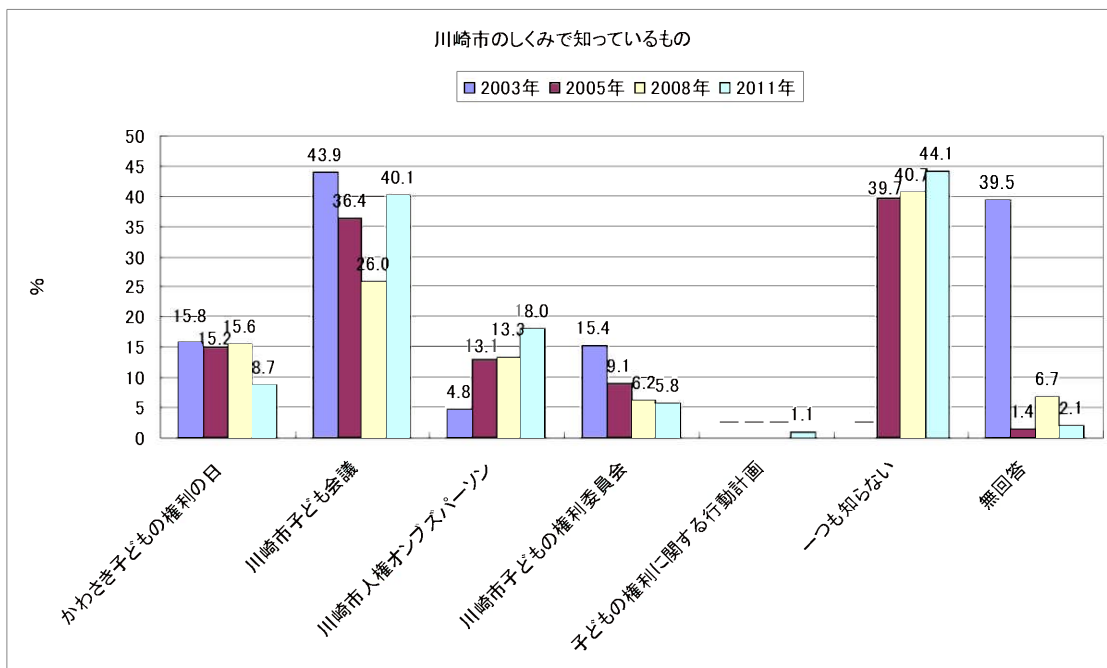
図 1 7 【子ども—平日に過ごす場所別】



【子ども—経年比較】

2003 年、2005 年、2008 年調査と比較すると、「子ども会議」は、前回調査（2008 年）と比べると 40.1%と大きく持ち直し、初年度調査（2003 年）時の 43.9%に次ぐ認知度であった。また、年々認知度があがってきた「川崎市人権オンブズパーソン」は、前回調査よりさらに上昇し、18.0%であった。しかし一方で、「一つも知らない」とする回答も、44.1%と今回調査が最も高い割合であった（注：2003 年調査では、選択肢「一つも知らない」は設定されていない）。

図 1 8



※2003 年調査では、「一つも知らない」は設定されていない。

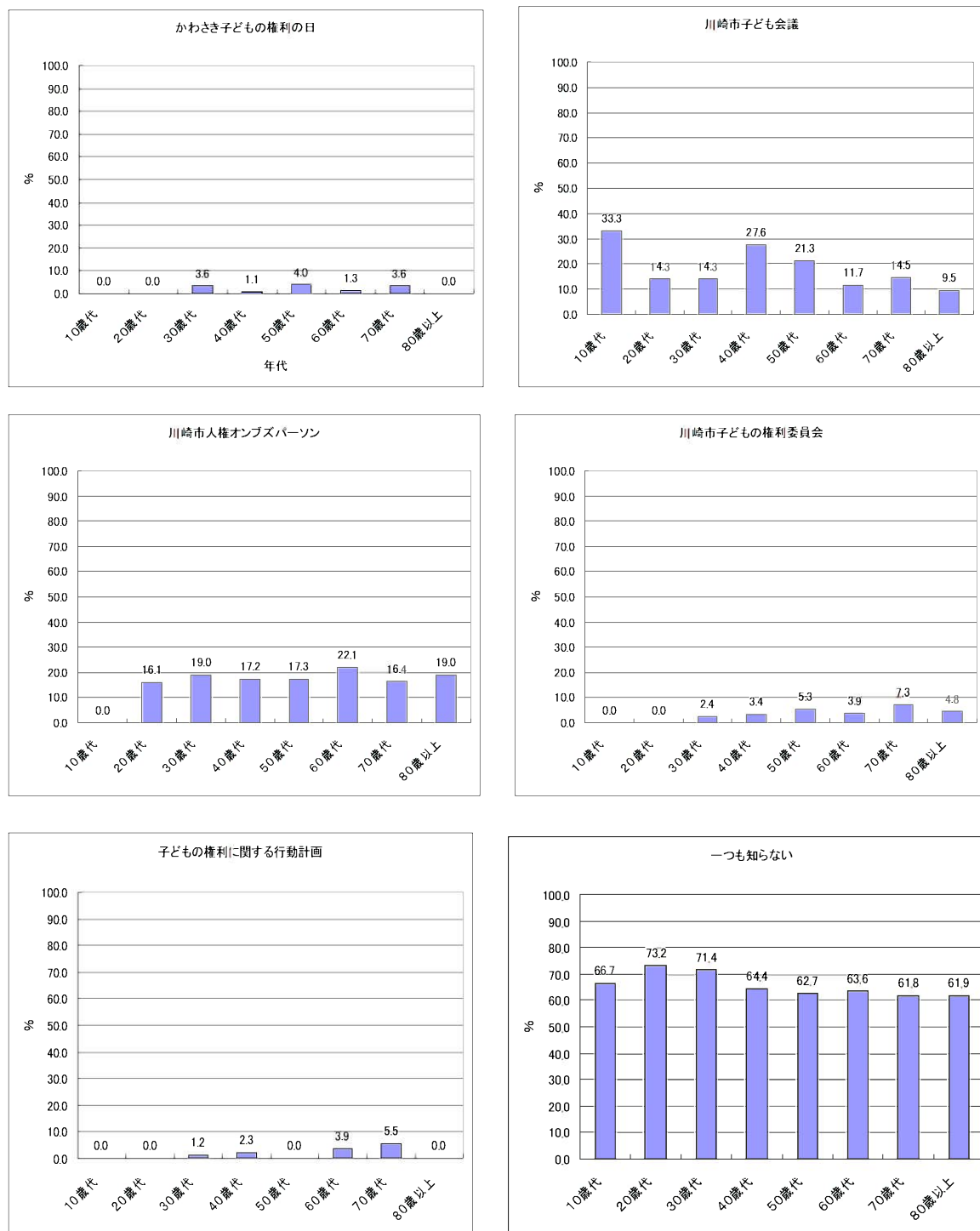
※2003 年、2005 年、2008 年調査では、「子どもの権利に関する行動計画」は設定されていない。

② おとな

【おとな—年代別】

年代別に見たとき、「川崎市子ども会議」の認知度が、10 歳代で 33.3%、40 歳代で 27.6%と他の年代より比較的高い傾向があった。

図 1 9

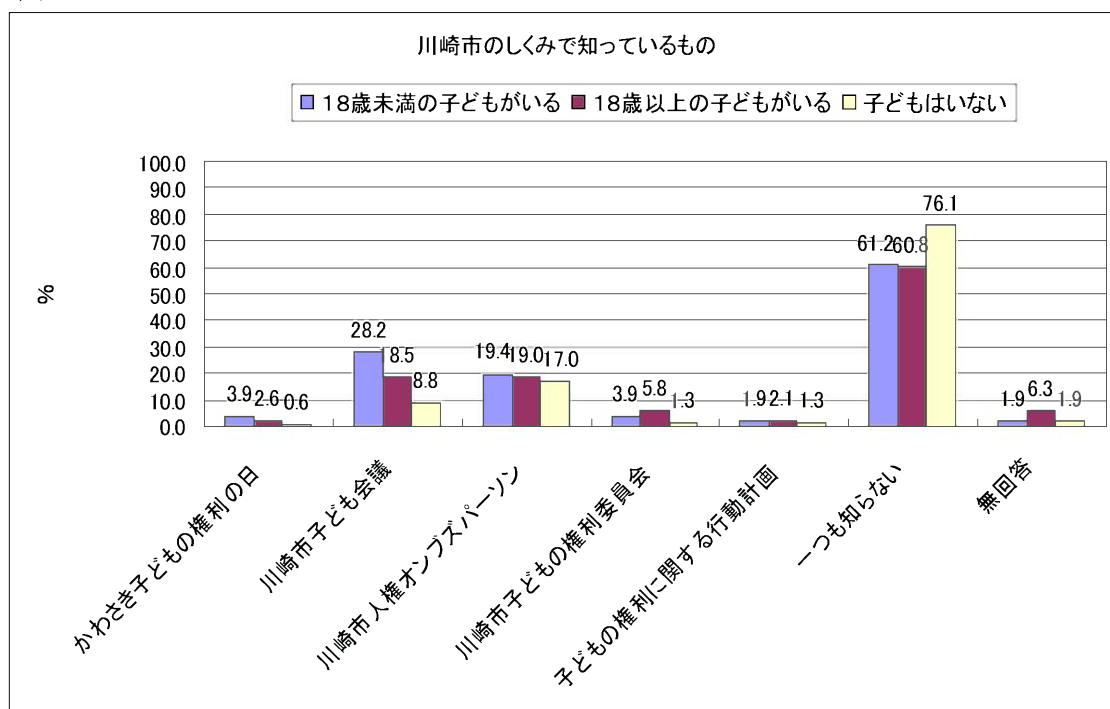


【おとな—子どもの有無別】

「18 歳未満の子どもがいる」おとなは、「18 歳以上の子どもがいる」おとなや「子どもはいない」おとなに比べて「川崎市子ども会議」をあげる回答が多かった（28.2%）。「川崎市人権オンブズパーソン」については、子どもの有無にかかわらず約 20%のおとなが知っているという回答した。

また、「子どもはいない」おとなは、子どもがいるおとなに比べて「一つも知らない」割合が高かった（76.1%）。

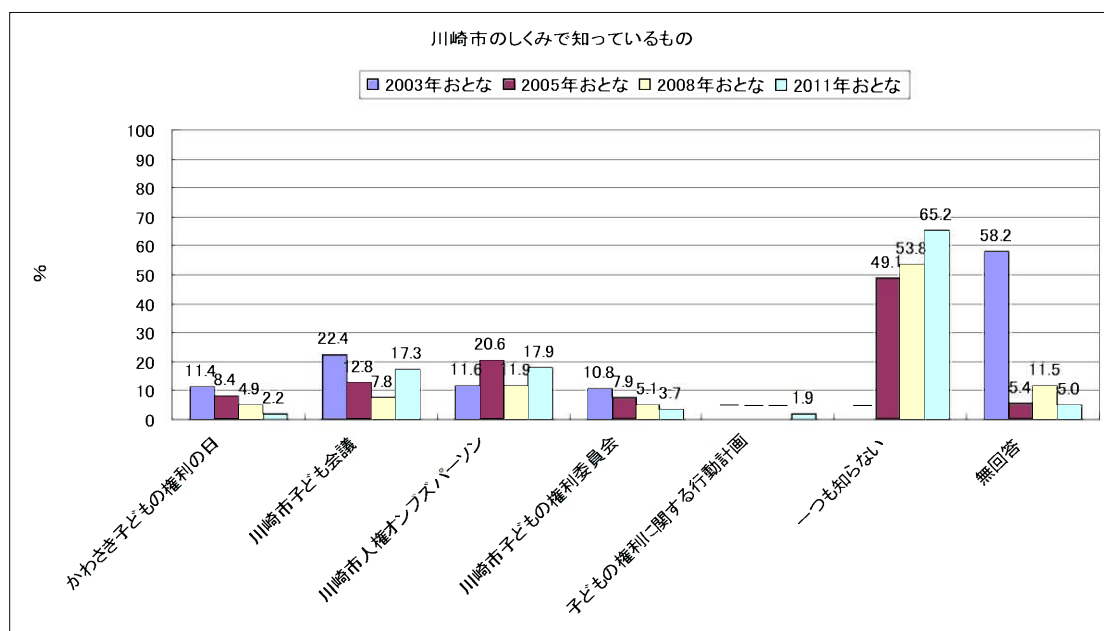
図 2 0



【おとな—経年比較】

今回の調査では、前回調査（2008 年）と比べて「川崎市子ども会議」と「川崎市人権オンブズパーソン」の認知度が少し上がっている。しかし一方で「一つも知らない」という回答が 65.2%と過去最高であった。

図 2 1 【おとな一経年比較】



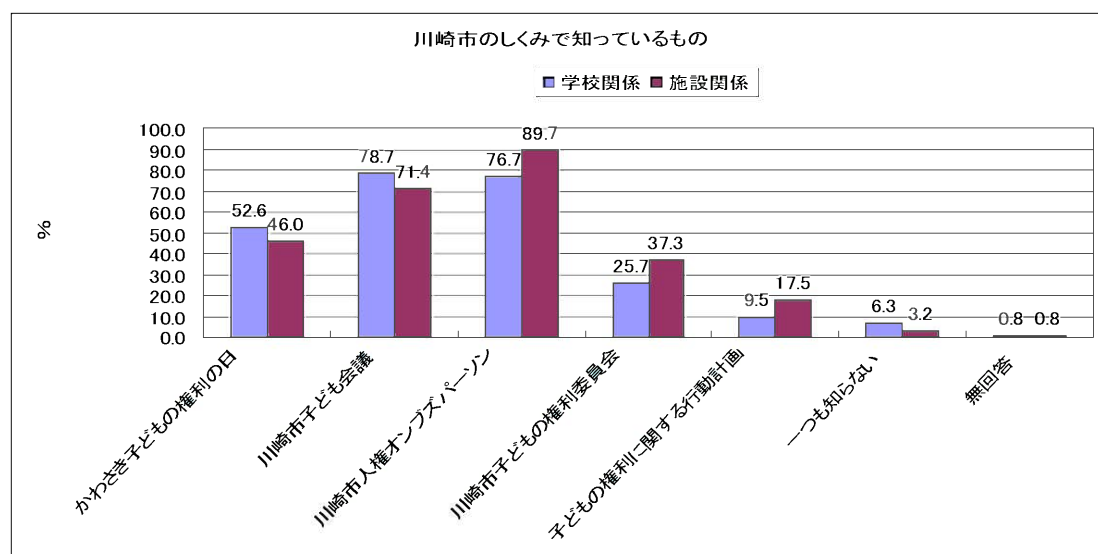
※「—」表記は、各年調査において選択肢が設けられていなかったことを示す。

③ 職員

【職員—学校・施設別】

学校関係の職員も、施設関係の職員も、「川崎市人権オンブズパーソン」「川崎市子ども会議」を知っていると回答する割合が高かったが、特に施設関係の職員は「川崎市人権オンブズパーソン」をあげる回答が 89.7%と約 9 割にのぼった。学校関係の職員は「川崎市子ども会議」「川崎市人権オンブズパーソン」をあげる回答が約 8 割と高く、次いで「かわさき子どもの権利の日」をあげる回答が半数以上であった。

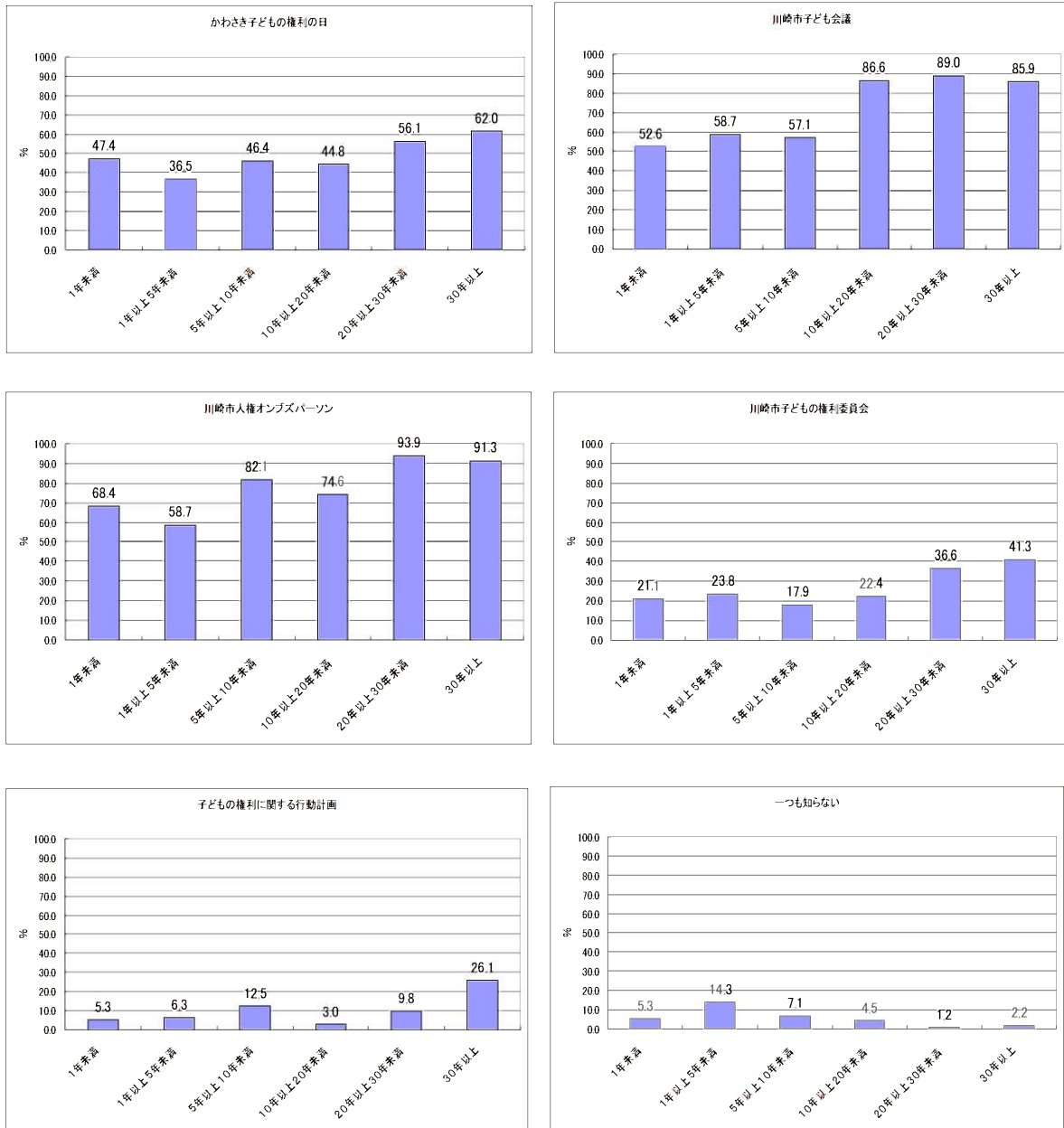
図 2 2



【職員—勤続年数別】

おおそ勤続年数が長いほうがそれぞれのしくみの認知度が高い傾向にある。

図 2 3



【職員—経年比較】

今回の調査では、子ども・おとな同様、職員についても、「川崎市子ども会議」「川崎市人権オンブズパーソン」の認知度が前回調査よりも高くなった。

図 2 4

